

授業科目名	中東と国際社会	単位数	2単位
担当教員名	佐々木伸	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 世界の火薬庫といわれる中東と国際社会の関係を考察する			
【到達目標】 (1) 世界のエネルギー資源の宝庫である中東でなぜ紛争が多発し、不安定な状況が続くのか、その原因や構造を探求する。 (2) 紛争の背景である歴史、政治、宗教、民族、文化などの理解を深める。 (3) 中東への大国の影響力行使について考察し、平和と安定への道を展望する。 (4) 日本と中東との関わり、並びに日本の国際貢献と共生の在り方について考える。			
授業の概要			
世界の「紛争の巣」ともいえる中東情勢について、列強支配の歴史、政治、ユダヤ、キリスト、イスラムという宗教を含め、民族、文化、言語などの基本を多角的なアプローチで把握、分析。紛争の根本的な要因であるパレスチナ紛争や、イスラム過激派の興亡、ペルシャ湾の緊張など対立と分断の現況を研究、平和実現の展望を探り、中東と世界、そして日本との共生の可能性を考察する。			
授業計画			
第1回：中東を知る－中東の基礎知識（3大宗教、民族、言語、社会、文化など） 第2回：パレスチナ紛争の本質と歴史的背景 第3回：中東紛争の拡大－植民地主義と民族主義 第4回：和平への動きと米国の調停－エジプトの単独和平、オスロ合意 第5回：トランプ米前政権によるエルサレムへの米大使館移転、新和平提案 第6回：ガザ戦争 第7回：イスラム急進主義とイラン革命 第8回：国際テロ9・11とアフガニスタン戦争、米国のイラク侵攻 第9回：湾岸の諸戦争－イラン・イラク戦争、湾岸戦争 第10回：イランと米国の対立 ペルシャ湾の緊張 第11回：アラブの春の衝撃 第12回：シリア内戦とロシアの介入 第13回：イスラム国（IS）の興亡 第14回：紛争の処方箋と和平への展望 第15回：中東と日本、国際貢献と共生の道 定期試験			
スクーリングでの学修			
スクーリングでは中東各国で居住した経験や、戦争体験などをもとに現地感覚を共有する授業を行う。			
テキスト			
(1) 佐々木 伸 ダウンロード教科書 (2) 鹿島正裕（2013）「中東政治入門」増補新版			
参考書・参考資料等			
(1) 奈良本 英佑（2017）『14歳からのパレスチナ』合同出版 (2) 池内 恵（2018）『シーア派とスンニ派』新潮選書			
学生に対する評価			
スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			